

[文人たちの東アジア展によせて]

## 清・方士庶『山水図冊』について

## — その構成と伝統理解 —

淡い墨が重ねられ、幻想的な山々が浮かび上がります。作品を目の前にすると、その紙と墨の美しさに引き込まれてしまいそうです。方士庶『山水図冊』(大和文華館)は、中国水墨山水が清代に到達した高峰を示す名品の一つです。

方士庶(1692-1751)は安徽省歙県の出身で、王翬の弟子の黄鼎などに学び、当時の多くの安徽の画家がそうであったように、同郷の商人たちが活発に経済活動をしていた揚州に寓居し、活躍しました。

『山水図冊』は全十二図からなります。従来からも実景をもとに描いたことが予想されてきましたが、うち数枚が、黄山の光景に想を得て描かれた可能性があることがわかりました。

黄山は安徽省にある世界遺産にも登録された名山です。明代以降多くの画人がこの地に遊び、作品を残してきました。それは特に黄山画派とも呼ばれます。筆者も南京へ留学中の正月休み、学生寮の仲間と訪れたことがあります。夜行列車に揺られて到着、朝から登り始めて山中で一泊し、屹立する岩肌と雲海の神秘的な美しさに心を奪われました。翌日は石澗や梅清たちが描いた場所を探してまわり、山中でまた一泊。下山後は屯溪や宣城を訪ね、かつて日本で出会った名

品の故郷に帰り着いたようで、深い感銘を受けました。

方士庶『山水図冊』第四図では、峰頂にぼつんと建物が建っています。これは黄山の「練丹台」に相当するかと思われます。また第十一図の岩に添って這うような松(図1)は、有名な「擾龍松」ではないかと思われます。第七図(図2)には両側を垂直に切立つ崖の間に延びる道が描かれますが、これは小心坡から「一線天」の可能性がります。岩の間の登山道から天を見上げるとあたかも一本の線のように見えることから名づけられた登山道です。これらは当時の『黄山志定本』(1679年)や弘仁『黄山山水冊』(図5)にも特徴的な名勝として描かれています。そう考えると第九図の登山風景(図3)は、黄山の主峰、蓮華峰かとも思われます。蓮華峰は整備された石段が頂上まで続き、そこから見える雲海は、あたかも帆船が運航しているようで、黄山のクライマックスの一つでもありました。第五図(図4)では短い松葉と強縮する幹枝をもつ松が描かれます。これは山上に自生する黄山松の特徴で、黄山を描いた同時代の絵画によく見られます。

ところが本作品には、このような実景との相関関係だけでは理解できない魅力があります。かなとこを伏せた

ような山頂の形は、北宋の郭熙『早春図』(図6)など、李郭派の伝統を踏襲するものです。方士庶は郭熙に倣う作品も制作していることが記録からも分かります(『天慵庵筆記』)。やや年上の高岑『山水図』(京都国立博物館)や石澗『廬山観瀑図』(図7)などは、題記から郭熙の筆法に倣ったことがあきらかな例ですが、このような作例からも、中央に主山を置き、深谷を描き出す構図が、郭熙画法と理解されていた事がうかがえます。

この第五図では、山道を登ってきた人の眼前に、雲の向うから山頂があらわれた場面が表現されています。峰に登り、実際に眺め渡した時のような臨場的な視点は、弘仁などの絵画にもみられます。また山容が現われた崇高なその感覚は北宋画に共通するものです。

それまでの筆墨を重視する文人画表現では、実際の景観を表現したいという黄山に魅せられた画家たちの欲求は実現できませんでした。ところが北宋に完成されていたパースペクティブは、現前する山容の感覚をより正確に、より重量感をもって表現できるものでした。ここではそのような画家の表現欲求に従って、北宋画の伝統がふたたび発見されたとも言えるでしょう。

本図には第十四図に羅振玉(1866-1940)と長尾甲(雨山、1864-1942)の跋が、帙には内藤湖南の題署があります。

羅振玉は辛亥革命を避けて日本に亡命し、京都で多くの日本人とも親交した人物です。この跋からは、渴筆の美が時代を超え、また国家を超えて感動を与えたことを知ることも出来るでしょう。

本図冊十二図のうちには、黄山図のほかにも正統派の山水が描かれます。また注目すべきはその珍しい構図ですが、それはまた稿を改めて論ずる必要があります。(図2は『支那南画大成』13、図7は『泉屋博古中国絵画』より転載) (塚本鷹光)

図7 石澗  
『廬山観瀑図』  
(泉屋博古館)

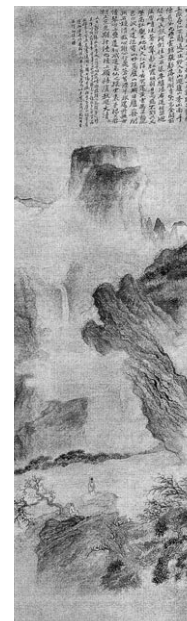


図6 郭熙『早春図』(部分)  
(台北・故宮博物院)



図1 方士庶『山水図冊』第十一図  
(大和文華館蔵)



図2 同第七図



図3 同第九図



図4 同第五図



図5 弘仁『黄山山水冊』  
(北京・故宮博物院)



季刊 美のたより No.155

平成18年7月7日

発行 大和文華館